



こもれびの森の樹木 (24)

今回は前号、第23号で紹介しました活動地Aの野鳥の通り道に植生する低木の続きです。このエリアの低木はムラサキシキブが最も多く次いで**コゴメウツギ**、ガマズミ、ニシキギ、**トウネズミモチ**、**マユミ**の順ですが、既に取上げている樹木を除いた樹木を紹介します。

コゴメウツギ (小米空木) はバラ科コゴメウツギ属。日本全国の低山地に自生する落葉低木、樹高は1~2mほどで、葉は長さ2~5cm、羽状に裂け、先端が尖ります、花期は5~6月、黄色がかった白色で小さく枝先にまとまってつき、開花期には枝先が白く見えます。名前の由来は小さな花の样子が小米で小さな花のウツギの意味です。



コゴメウツギの花

トウネズミモチ (唐鼠麴) はモクセイ科イボタノキ属。

常緑小高木、中国原産で日本には明治初期に渡来し、各地に広く植栽されています。中央緑地の道路沿いでも見られます。樹皮は褐灰色、皮目が多い、葉は対生、長さ6~12cm、花期は6~7月で白い小さな花を多数つけます。



トウネズミモチの花 (左) と実 (右)

果実は10~12月に黒紫色に熟します。類似種のネズミモチとの区別は葉が大きく、先が細く尖ります。ネズミモチの葉は光にかざしても葉脈が見えないが、トウネズミモチは見えます。果実は楕円形がネズミモチ、トウネズミモチの果実ほぼ球形です。

本種は成長が速く、丈夫で塩害や大気汚染にも強く公園や街路樹、工場などの緑化樹として植えられています。中国ではイボタムシが分泌するイボタロウを採取するため栽培され、果実を乾燥したものを強壮剤として使用されています。

マユミ (真弓) はニシキギ科ニシキギ属で落葉小高木。3~5mで10mにもなるものもあります。樹皮は縦に筋が入って少し裂けます。葉は対生、長さ5~15cmで先が尖った長楕円形です。花期は5~6月緑白色の小さな花が1~7個つけます。果実は晩秋に4裂し橙赤色の仮種皮に包まれた種子が顔を出します。名前の由来は枝がしなうので、弓を作ったことによります。(林)



マユミの花 (左) と実 (右)

木もれびの森の野鳥たち 3月

<大雪と珍客、そして恋の季節が・・・♥>

1月の半ばに降った大雪は、下旬まで森のあちこちに残り、野鳥たちにとっては厳しい越冬となり

ました。雪が降りしきる中、観察できたのはキツツキのアカゲラとコゲラだけ。あたりは銀世界、地面は雪で覆われ食べ物は探せません。

雪の融けた後、枯れ草や落ち葉に埋もれた木の実や草の種子(ミズヒキ・イノコヅチ・イネ科など)、そしてヤブランやリュウヒゲの黒や青の実などを見つけ出して食べていました。

丹沢や大山など周辺の間々も雪に覆われ、例年、めったに姿を見せない珍客のフクロウやミヤマホウジロがやってきました。フクロウはカラス2羽に追われ、下藪の茂った林に逃げ込みました。カラスは猛禽類などの侵入者に対してはとても敏感で、よく追い出し行動に出ます。ミヤマホウジロは明るい林の下で、枯れ草の中からイネ科の小さな種子を次から次へといっばんでいました。頭部の黄色と胸の黒のコントラストが見事でした。



ミヤマホウジロ

さて立春も過ぎ、木もれびの森の野鳥たちは、早めの恋の季節を迎えています。シジウカラたちは群れを解消し、雄はラブソングを歌い雌を誘います。森の奥から小さな猛禽ツミの鳴き声が響き、アオゲラも立派なくちばしでタラタラ、と木を叩いてなわばり宣言を。北国に帰る冬鳥のツグミたちは、長旅に備えて栄養補給に余念がありません。木の芽の展開とともに虫たちも活動を開始し、森が賑わう季節へと向かいます。(瀬尾)

虫こぶの不思議(その1)

樹木の葉や芽また植物の茎などにこぶがついているのを見かけたことはありませんか? 中に虫が見つかることが多いので虫こぶ・虫えいと呼ばれるようになったそうです。わたくしが今まで見た虫こぶで印象に残っているものは、「クリメコブズイフシ」です。初夏の雑木林、鮮やかな赤がひととき人目をひく1本の木がありました。なんてきれいな色でしょう、近づいてみると栗の木でした。

形成者は、クリタマバチ。このようなこぶが昆虫だけでなくダニや線虫、菌類、細菌によっても形成されることが判ってきました。虫えい・ダニえい・・・などをまとめてゴールと呼ぶようになってきたそうです。日本で確認されている虫えいは 1400 以上、一番多いのはタマバエの仲間が全体の 40%以上を占めるそうです。今日は虫えいの名前の付け方をご紹介します。(高橋)

虫こぶの名前

虫こぶの名前 = 寄生植物名 + 形成される部分 + 形成的特徴 + フシ (虫えいを意味する言葉)
クリメコブズイフシ = クリ(栗) + メ(芽) + コブズイ(瘤髄) + フシ …… 形成者はクリタマバチ
アオキミフクレフシ = アオキ(青木) + ミ(実) + フクレ(膨れ) + フシ …… アオキミタマバエ



クリメコブズイフシ



アオキミフクレフシ